

AI や IOT と雇用などで議論—全労生と意見交換

全国労組生産性会議との懇談会が3月1日、日本生産性本部で開かれ、労ペンからは麻生事務局長ほか15名が参加。全労生側は相原議長はじめ5名の幹部が出席した。

まず久保事務局長から2017春闘にあたっての「全労生の主張」（2月15日発表）の説明を受けた。「個別労使は生産性運動の深化・拡大に向け、職場のすべての人々の仕事と生活（働き方）の調和を再点検すべき」「付加価値創造を基礎とする経済社会の構築へ、産業別労組は、公正労働基準と公正競争秩序の確立に向けた労使協議を徹底し、雇用・労働条件、環境などの社会的課題を犠牲にする負の競争に歯止めをかける必要がある」などと訴えている。



また3年ごとに実施している「雇用と労使関係課題に関する共同アンケート調査」の結果も報告され、これら報告への質疑応答、さらに働き方改革、AI や IOT と雇用、宅配便の労働環境——など直面する労働課題についても意見交換した。（山田潤三）